

あなたとJAをおすすめ情報誌

なかしべつ

2000
1 月
No.301



謹賀新年

謹賀新年



輝かしい新年の西暦展と
 心よりお初めの御挨拶と
 平成十二年元旦

中標津町農業協同組合

代表理事組合長	高橋勝義
副組合長理事	中司哲雄
営農委員長理事	上村重光
生産委員長理事	土井信一
管理購買委員長理事	藤井美智
理事	川村清夫
理事	中村敏夫
理事	長路清
理事	古澤翠
代表監事	渡邊昭行
監事	土井善男
監事	瀧上平義

白負と誇りを 持てる時代に

中標津町農業協同組合

代表理事組合長 高橋 勝義



明けましておめでとつ、ございます。輝しい西暦二〇〇〇年の新春を、皆様にはご家族おそろいでお迎えのこ

と心よりお慶び申し上げます。私事、昨年六月の役員改選に於いて選出された全理事の推薦により大

役をお受けしてから、事業運営、多くの懸案、課題対応に追われる日々で一瞬の間に平成十一年が過ぎたという感じであります。

この間、多くの組合員、そして関係各位、仲間から励まし、ご指導の数々をお受けし、私自身にとりましても何よりも心強く、支えてくれて

いるお心に触れ、有難さに深く感謝を申し上げます。農協事業について、総会で承認された計画に沿って各事業全般にわた

り推移しておりますのも、組合員の皆様のご理解・ご協力の賜であり衷心より感謝を申し上げますと共に、平成十一年度の残された期間について、

役員共々更に努力精進を続けるつもりですので、特段のご支援をお願い申し上げます。さて、昨年を振り返りますと、低温、

多雨の五月や、当地域ではかつてない猛暑の七、八月などから家畜の病死亡事故、繁殖受胎への影響、また、畑作物についても高温障害など少なからずご苦勞の多い一年だったと思いま

す。反面、飼料用トウモロコシなどは登熟が早まり、牧草サイレージ、乾草調整に於いても順調な収穫作業となり、組合員皆様の適切な飼養管理や肥培管理と相俟って、総体的には平年を上回る作柄となりました。

酪農に於いては、前年に引き続き乳価の引き下げや、肉牛価格の低迷はあったものの、生産意欲や努力により堅調な生乳生産が続き、農協全体では、十万人突破を達成し、経営収支においても飼料価格の値下りや経営上の引締めもあって、前年を上回る状況となっております。

今後は、酪農家にとって生乳は商品であると感じをもって、乳質・乳成分向上安定を実現し、市場取引という来たるべき時代に備える、新たな段階への取り組みを組織あげて対応する時期と考えております。また、畑作では、でん粉原料馬鈴

しよや生食加工馬鈴しよ、てん菜、大根など当初計画を上回る生産実績となりましたが、でん粉価格は市況悪化により価格低迷から脱せない状況にある一方、大根では、猛暑による道内生産地の不作による価格高騰

など想定外の結果に助けられた面もあることから、市場での地位向上を目指し、より一層、良質な製品出荷や歩留り向上に心掛けるべきと、課題

日標の見えた年と総括しております。外に目を向けますと、次期WTO交渉を見据えた「食料・農業・農村基本法」が七月に制定され、国際化への対応と我国の食料安定供給、多面的機能、農業の持続的発展、また、農村振興に関して中山間地などへの直接的支払いが謳われるなど一大転換の年となりました。更に補給金制度の見直しや、新たな農業政策大綱、家畜糞尿など環境関連法が制定されるなど、価格安定支持対策から市場原理による価格決定、変動に伴う経営安定対策の検討など引き続き動きがあるものと注視していく所存です。

日本の食料自給率は四一割と、先進諸国の中で最低の水準であります。牛乳類は約七〇割、でん粉は約八割、てん菜糖は約二三割と国内生産の割合は自由化や内外価格などの理由から、徐々に減少傾向をたどっております。

二十一世紀は農業の時代と云われますが、農業者が自負と誇りを持てる時代となる様組合員の皆様と共に主張し、組織として更なる実践をしてまいりたいと考えております。

最後に組合員ご家族の皆様のご健康とご多幸をお祈りし、また私を始め役員へのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

新年にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 宮田 勇



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平成十二年の新春を迎え希望に満ちた年となりますようお祈り申し上げます。昨年の本道における作柄は夏までは稲作・畑作とも総じて豊作基調にあり、農作業は全体的に例年よりは早めに推移しておりました。しかし、記録的な猛暑とともに七月から八月の長雨の影響もあり、収穫期にはいりまして米では着色粒被害が、また畑作物につきましても一部作物に育成障害がみられ、さらに酪農・畜産におきましても暑さによる乳量の減少と家畜の死亡の被害が生じたことは誠に残念であり、被害を受けた方々には心よりお見舞い申し上げます。

昨年は、WTO次期交渉への対応に向けて、国内農業政策の大転換がなされた年でありました。七月十二日に「食料・農業・農村基本法」制定され、食料自給率向上のための施策、市場原理を重視した価格形成への移行と価格政策見直しに伴う所得確保・経営安定対策の実施を基本とした諸制度の見直しが行なわれることとなりました。これらに基づき麦

作については本年産からの民間流通の実施が決定されたほか、甘味資源、水田、酪農についても、新たな政策大綱が出されました。

今年から本格化しますWTO次期交渉では、農業の果たす役割がどの様に評価されるのかが鍵となります。農業は単に食料という商品を生産しているだけではありません。わが国はEUとの共同歩調のもとに「農業は国土・環境の保全といった多面的機能や食料安全保障の機能を有しており、工業製品やサービスと同列に論ずることができない」ことを主張してまいります。もし国境措置が無くなると国産品の殆どの農畜産物は外国の低価格のものに太刀打ちできません。これが多数流入してまいりますと作物バランスが崩れ、環境バランスが崩れ、地域バランスが崩れることにより、地方の維持ひいては国家の維持も難しくなります。今回の交渉は日本の独立性、自主性を訴える重要な交渉であるといっても過言ではありません。食料を一部の国の国家戦略に利用される商品としてはならないのです。

私は、二十世紀が科学万能の時代

であるなら、二十一世紀は食料と農業の復権の時代であると考えます。世界的に食料は偏っており、あと二十年もすると人口の増加に対して、食料が賄えなくなるとの予測が出されております。日本人の多くは残念ながら食料は金を出せば世界中から、どの様な物も手に入るといふ奢りがあるのでは無いでしょうか。国内生産の大事さが軽視されているのではないかと考えます。そこから、自分が生きるための食料の大切さが認識されてくるのが、二十一世紀ではないでしょうか。北海道農業は、現在のわが国の少子化・高齢化社会の現状からも農業従事者の減少は避けられません。しかし、新しい基本法は、意欲ある専業農家の育成を盛り込んでおります。専業農家の多い北海道こそが、二十一世紀の日本の農業を担うのです。本年は、第二十三回JA北海道大会の開催年でもあります。皆様とともに、二十一世紀の本道農業のありかたについて共に考え、そして幅広く国民の理解を得てまいりたいと存じます。

現況をみつめ 新たなシステム構築を

北根室地区農業改良普及センター
所 長 井 芹 靖彦



新春をお迎えし謹んでお慶び申し上げます。

昨春、牧草地の一部に土壤凍結や停滞水の影響を受け窒息死による冬枯れ被害が見られたほか、萌芽期は十日ほど遅れてスタート致しました。

生育期の天候は五月上旬の不順な天候により、馬鈴しよの植付が遅れましたが、その後は順調に推移し、畑ばかりでなく牧草の収穫についても一番草は六月二十六日に始まり七月二十三日と、やや早めに終わりました。

八月上中旬には記録的な猛暑となり、二番草の生育は早まり栄養価は低下するなど影響を受けましたが、牧草収量は三・八割と平年並みでした。畑作では馬鈴しよ三・六割台、てん菜は五・一割台、サイレージ用トウモロコシは乾物収量一・四割台を記録するなど、作物により収量差が見られました。

一昨年より取り組んでいる夏秋取り大根については収量、単価とも好結果となりました。

このような結果の反面、圃場差、個人差もみられるなど反省点も指摘

されております。

一方、地域の主要生産物である生乳生産量は、八月上中旬の猛暑により著しく低下し、その後の回復が心配されましたが、下旬以降順次回復しました。生乳生産状況は十一月現在、対前年比では一〇五・六割と管内、全道を上回る伸びとなっております。

このような成果も施設の充実や換気、給水、飼料給与などの飼養管理に万全を期したためと考えられます。他方、十一年度の農業情勢は、農業政策に係わる法律や制度が多数改正が行なわれました。

特に七月には新しい農業基本法である食料・農業・農村基本法が制定されました。

また、酪農専業地帯として関心の高かった家畜排泄物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律も成立し、十一月一日に施行されました。同法は五カ年間の猶予期間が在るとは言え、糞尿の野積みや素堀り処理ができなくなりました。

農業を取り巻く環境は刻々変化しております。

すでに、農業基本法に先立ち農業改革大綱・農政改革プログラムが平成十年十二月に決定し、酪農においては酪農・乳業対策大綱に基づき諸政策が動きだしております。

原料乳の価格形成についても、二〇〇一年より市場原理が導入されることになっております。

これに伴い生産者交付金など、激変緩和の導入方向が示されております。酪農が地域の産業として発展するためには、今一層の合理化が必要になるものと考えられます。

合理化の手法は無数にあると考えられます。合理化に向け行動を起こす場合には、課題を整理し、必要に応じて新しい機能の新設を含め、対応できる柔軟な思考が重要になります。

普及事業もこのような方向に対応できるよう努力致します。今年もご支援賜りたくお願い致します。

共同参画の第一歩 を踏み出しましょう

中標津町農協女性部

部長 横田 純子



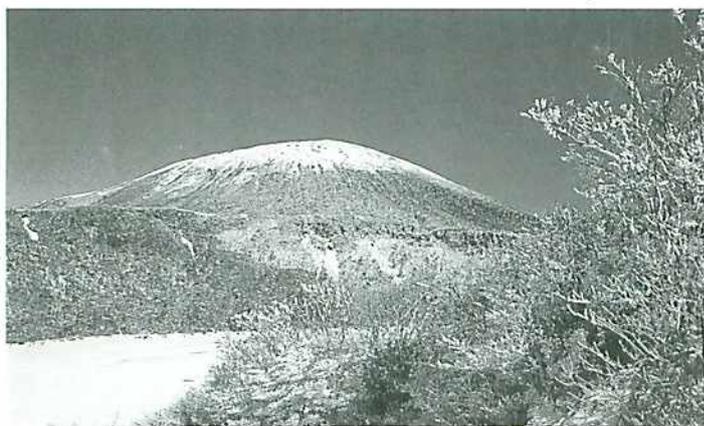
謹んで新春のお慶びを申し上げます。いよいよ二十一世紀、新たな幕あけです。

男女共同参画の第一歩を踏み出す時が来ました。共同参加から共同参画へ、この文字の違いをよく考えてみましょう。私達女性は神世の昔から大和なでしこ、殿方より何事も一歩下がってという觀念から、戦後「男女同権」といわれ、強くなったのは「靴下と女」といわれ、その中にも女らしさを忘れずに今迄来ました。これからも女性らしさは失いたくないものです。そして今迄以上に、それぞれの農村女性が小さくは家の中

で、大きくは家の外で、女性の意見を云える様に内外に、そして、また、いろいろな事に対しての聞く耳を持つて、大きな視点で物を見、判断出来る様に皆で頑張る時です。

私達女性部も女性の正組会員加入、高齢社会を迎えての介護問題、環境問題などこれからの大きな課題となるでしょう。

組織に入っているから出来る、組織でなければ出来ない事など沢山あります。仲間作りをしながら、また、今年も元気で楽しい女性部でありたいと思います。



青年部員としての の誇りをもって

中標津町農協青年部

部長 岡部 達也



組合員、部員の皆様、明けましておめでとございます。

昨年は、農業情勢、天候ともに変化に富んだ一年となりましたが、二〇〇〇年の今年は、平穏な一年であってほしいと願っております。

さて、青年部は創立から五十一年目を経過し、数々の活動を行なっておりますが、部員数の減少、事業内容の見直しなど、さまざまな課題が山積されています。そこで青年部として「何をしなければいけないのか?」、「何がしたいのか?」、「何が出来るのか?」この三つの事柄を、少しでもイコールでつながる様十分に

話し合い、そして皆様から「さすが青年部」と言っていただけける様な活動を行なうて行きたいと思っております。

また、JA青年部は管内、全道、全国とつながっている組織ですので、たくさんの方の仲間が同じ目的で集まっています。そこで、部員の皆様にも青年部を通して数多くの仲間を作っていただけたらと思っております。

個人主義になりがちな現代ですが、「じゃがいも伯爵まつり&ふれあい広場」、「交通安全キャンペーン」、「環境整備事業」、「消費拡大事業」などを通しての消費者の方々との交

流は、青年部組織に加入しているからこそ出来る事です。

部員の皆様におかれましては、青年部員としての誇りをもって活動していただきたく、また、組合員の皆様には我々の活動内容を十分に理解して、今後ともいろいろな面で応援していただけたらと思っております。

最後に、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶いたします。

地区別懇談会を終えて

平成十一年十一月二十九日、十二月一、二日の三日間、地区別懇談会を実施し、皆様の意見をお聞きしました。

説明した内容は、十月末の農協事業概況、同じくクミカンの状況、でん粉工場再編に係るJA斜里への経済預け金、家畜個体識別システム研究開発事業についてです。

農協の全体事業に於いては、総会で皆様に示した計画にほぼ沿った推移となっており、九月末での収支予想では当期利益計画を上回る見込みです。

金融事業では、貯金残高が昨年より五億円伸びとなり、百三億円の実績となりましたが、このことは昨年の「あるる」開店以降の町内外の顧客の増加と特別キャンペーンなどが、利用者に受け入れられているためと思われまます。貸付金では、組合員の生産意欲の現われであるスーパーL資金、乳牛保留資金の需要増により二億八千万円の増加となりました。販売事業では、乳代（補給金含む）で二億四千万円の増、個体販売、農

産販売では大根が作付面積の増加と価格の高騰もあって、一億四千万円の増、一方、でん粉や畜産部門では販売数量の減少もあって、乳代含めた全体では、二億六千万円の増加となっています。購買事業では、生産資材部門で飼料価格の値下りなどにより、一億二千万円の減となっていますが、「あるる」においては四億七千万円の増加となっています。「あるる」の年間供給高の見込みは約二十六億円と想定しています。

また、燃料については、産油国の生産調整により原油価格が高騰しており、供給価格についても、値上げ基調が続きます。

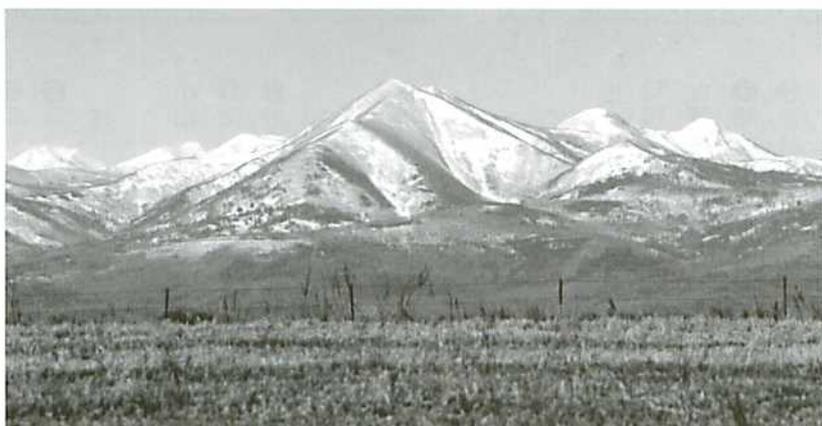
クミカンの状況では、乳価の値下りはありませんでしたが、生産乳量の堅調な伸びもあり、全体収支では昨年以上に好転の見込みです。

JA斜里への経済預け金については平成十二年度よりでん粉原料をJA斜里工場へ搬入することに対し、JA斜里の生産者と同等の権利の行使と義務を果たすため、必要であると説明を致しました。

家畜個体識別システムは、現在E U(オランダ)で導入され成果を上げており、統一した耳標番号による個体識別を実施し、各関係機関による飼養管理・改良・防疫など個体管理情報の統合と、高度なサービスの提供を目指すものです。モデル事業の実施期間は平成十一年から十三年度で、当組合としては十二年度導入希望としており、今後、関係組織・組合員の皆様と、さらに検討を進める必要があります。

また、現在、検討している農協有バルククーラー貸付事業(案)について、隔日集荷を基本とする考え方を説明し、意見を聞いております。

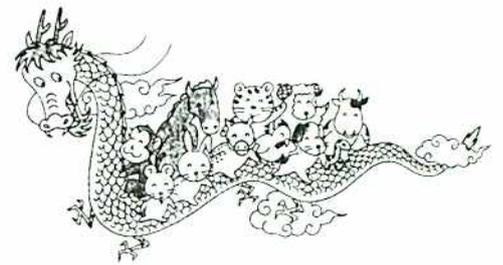
師走の懇談会ということと、ヨ一ネ病検査や内地購買など、何かとご多忙の中、ご出席戴き誠にありがとうございます。皆様の貴重な意見について、対応すべきものは速やかに実行し、また理事会などにて十分に検討し、事業運営に反映させてまいります。



辰年の仲間を 紹介します

今年の干支は辰、十二支の五番目です。辰年生まれの組合員皆さん約百人の中から、一戸に二人以上の辰年生まれの方に登場していただきました。今年も良い年でありますようご祈念申し上げます。

- ① 生年月日
- ② 今年の抱負



南俵橋第二地区

中川喜美子さん

① 昭和二十七年三月三日

② ケガ、事故がなく健康で過ごせますように

中川美穂さん

① 昭和五十一年八月十四日

② 家族がもう一人増えます。無事に出産できますように。

中川 将さん

① 昭和五十一年七月二十五日

② 家族を大切に、良い父親になる。



南武佐地区

小沼美恵子さん

① 昭和二十七年三月二十一日

② 家族みんなの健康を祈ります。

小沼 悟さん

① 昭和二十七年一月四日

② 健康管理に気を配り、丈夫な体を作って頑張ります。



昭和地区

古澤和子さん

① 昭和十五年四月八日

② 家族全員が健康で暮らせませうように。

古澤佳江さん

① 昭和三十九年九月二十日

② 家族が元気で仕事ができますように。



新しいJA共済をめざして

2000年4月

47都道府県共済連と全国共済連は一斉統合します
総合力で大きな安心・確かな信頼

万が一の大災害にも
大きな経営基盤で
万全なお支払いを
いたします。

どこよりも安い掛金で
優れた保障内容を
提供いたします。

統合
の
めざすもの

全国どこでも
迅速で的確な
契約者サービスを
提供いたします。

統合により一本化された
資金力を活かし
高度で国際的な資金運用と
リスク管理の強化を
いたします。

**391兆円の
保有契約高**

JA共済の長期共済(生命共済、
建物更生共済)の保有契約高は
平成10年度末で約391兆円。
個人契約の保有高では、国内
トップクラスの実績です。

34兆円の総資産

JA共済の総資産はおよそ34兆
円余。
国債などの有価証券や優良企
業等への貸付金を中心に安定
的な運用を行っています。

**お役に立てた
2兆7,420億円**

ご加入者の万一の病気や事故
をはじめ建物の火災・自然災
害等による被害、自動車事故、
満期共済金や年金共済金等で
平成10年度に約2兆7,420億円
の共済金をお支払いしました。



ニュージーランド 農業視察を終えて。オーストラリア

中標津町農協参事 南出 昭廣

今回、根室管内農協参事会の農業視察研修が実施され、組合長始め役員のご厚志によりニュージーランド、オーストラリアの農業を見る機会を与えて戴きました。本誌を借りて御礼申し上げますと共に、見たま、感じたままを報告させて載せます。

日程は、十月十九日から十月二十八日までで、ニュージーランド三泊、オーストラリア四泊、残り二泊は機中泊という長旅でした。

中標津空港から羽田を経由し、成田発二十時四十五分、オーストラリ



アカンタス航空で中継地シドニーへと向かいました。機内乗務員はほとんどが男性ということで、期待空しく機上の人となって約九時間、翌朝六時にシドニー国際空港へと到着しました。さらに一時間後、目的地ニュージーランド・クライストチャーチへと飛び発ち、十時三十分無事同地に到着しました。成田を発つてから約十四時間、路離約一万マイルとなります。

ニュージーランドは、十九世紀英国の植民地政策により開拓されて来た事から、英国式の(?)庭園、公園が整備され、子供達がラグビーで遊ぶ姿が見られます。また、通りに面した住宅は圧倒的に平屋が多く、道路から玄関まで芝生となっています。この芝生は、七寸以上は伸ばさないといい決まりがあるとの事です。

総人口三百四十万人、乳牛頭数三百三十万頭、生乳生産量一千万トン、国内産業では酪農が圧倒的優位を占め、国内需要より海外輸出を目指した政策が採られています。この国は、大きく北島と南島という二つの島からなりますが、飛行機の窓から見ると平

地から山岳丘陵地帯まで、開陽台牧場のように草地化されており、これ以上の拡大は望めないように思われます。クライストチャーチでは、今研修の一番の目的であるシェアミルクキ

ング制度を利用した二戸の農場を視察しました。この制度は、オーナーが土地と搾乳施設を含む建物を所有し、シェアミルクカーは乳牛と農業機械を持って、搾乳作業など日常管理作業を全面的に受け持つ仕組みで、この事を基本に双方が契約し、利益配分が行なわれています。

最初に訪問した農場は、タスマンズカンパニーという会社がオーナーの農場です。この会社は、七十三の農場を所有する同国最大級の農業経営会社です。同社が契約するミルクカーの要件は、本人の意欲、態度、搾乳牛を購入する資金、酪農の経験ということですが、最も重要な事は、本人の意欲、態度だそうです。この制度は、農外からの若者を自由に入入れ出来ること、本人の努力によって資産形成が出来、将来オーナーへの道も開かれていること、また現在のオーナーも年齢によってリタイアする必要がないことなど利点を有しています。しかし、契約期間(三年)を経て、本人の意欲、態度、業績によっては、契約を更新しない事も当然となります。

当農場のシェアミルクカーであるミンプソン氏も、最初は労力と機械のみを提供するコントラクトミルクカーから、資産形成をしつつ、自分の希望する規模の農場へと移行して来たこの事です。現在の規模は、百七十四頭の土地に六百頭の乳牛を有し、生産乳量二千二百トンで、季節分娩と完全放牧による酪農経営です。日本とは季節が全く逆となりますので、八月から九月にかけては、搾乳をせず農休期間として、旅行などで過ごすようです。

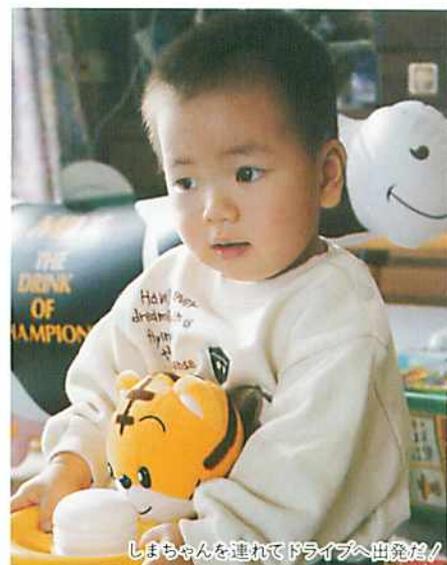
次に訪問したのは、個人がオーナーの農場でした。このオーナーは五十四歳と若いのですが、心臓病の手術を受け、農場を手離すことなく農場経営を続けたいというオーナーの意向と、この制度が上手く結びついています。後継者はいないというオーナーですが、四年前にパーラー施設を三十万ドル(約二千万円)で建設し、利用して(?)います。オーナーの住宅とは相当離れた所にあり、トラブルの心配がないのか、若干不安な感じを受けました。一行に対し、オーナーとミルクカーと一緒に説明をしてくれましたが、二人の信頼感と自信をもった応答が印象的でした。初めて接したこの制度ですが、十一年前は、当主の子供が後を継ぐ例が多かった訳で、利益を配分しつつ農場を維持拡大する流れとなっています。社会的、経済的にも地位の高い酪農であり、ミルクカーとしての社会的地位も認められていることが、この制度の定着と利用を高めていると思われま。へ次号へ続きます

■ ■ ■ わが家の 人気者

みなさま、新年あけましておめでとうございます。本年も、元氣いっぱい「わが家の人気者」をどなたにご紹介していきますので、みなさまのご協力をお願いします。

さて、二〇〇〇年の一回目を飾る人気者は、花川さん宅（協和地区）の長男・陸くんです。陸くんは、とっても元気でスマイルのカワイイ男の子なんだよ。陸くんは少しず

つ、お話しもできるようになってきたところ。いつもは、お絵かきやブロックで遊んでいるんだけど、陸くん専用のお絵かきセットで、上手にお絵かきしてました。それに、おかたづけまできちんとできちゃう、おりこうな陸くんなの。そんな陸くんのニコリ笑顔を見たく



しまちゃんを連れてドライブへ出発だ！

ママのトンネルはニコニコパワーがいっぱい

協和地区 花川昌典・環さんご夫妻 長男 **陸**くん(1歳8カ月)

魔法のトンネルが大好き！

て、ママの環たまさんにリクエストすると、とっても素敵な物が登場しました。それはママの手づくり、「わくわくトンネル」です。それはダンボールでできていて、きれいな紙が貼ってあって、見るだけでママのあたたかい気持ちが伝わってくるんです。陸くんもそのトンネルが出てくると大喜びです。「イナイナイバー」もしてくれて、とびっきり楽しく笑ってくれたね。とっても温かい気分になれたね。それともう一つ陸くんが、ニコニコになる魔法があるんだって。それは、「しまじろう」なんだよ。しまちゃんと陸くんは、いっしょにお昼寝したり、あそんだりするの。そんな時は、しまちゃんを弟みたいに、面倒みたりしてお兄ちゃんみたいなんだよ。

とびきり元気で、ニコニコえがおの陸くん。愛情いっぱい家族に囲まれて、スクスクと大きくなあれ。

各国の農業と文化にふれて



大きなピザができました

中標津町農協女性部

部長 横田 純子

全道JA女性部海外農業視察研修

二十三回目の全道JA女性部海外農業視察研修に、十一月二十一日より十二月五日迄行って来ました。

オランダスキポール空港に第一歩を踏み、翌日より研修、アールスメア花市場を見学。午後は花農家を見学、只、花農家といえども大企業で、四軒のハウスの中で百人のパート、五十人の常勤者でガーベラ専門でした。翌日はドイツへ移動、大雪の為に大幅に遅れながらも空港閉鎖の数分前に着地、ほっとした所でビールで乾杯。また、次の日より農家視察。ドイツバイエルンの酪農協会の会長

宅を訪問。四十五頭のフリーストールパーラー舎新築、牛も引越して一カ月という酪農家で、建築費が八千万円ということですが、九五割が自給飼料ということで根室酪農との違いを見せつけられました。午後はデッケンドルフの村で民泊、宿泊先に現地女性五人が来られ、食事を一緒にとりながら体で話をして交流、最後は互いにまた一緒に歌を歌って楽しい一夜を過ごしました。

翌日はミュンヘンへ移動しながら農業学校訪問、その夜はミュンヘンに泊り、次の日ローマへ向けて出発、着後はコロッセオ、トレビの泉など、少し観光客になりました。夕食はカントオーネを聞きながら最高の一日でした。次の日サンビエトロ寺院、バチカン博物館など見学の後、ピザ作りを体験。持参のエプロンを粉だらけにしながら自分の作ったピザで夕食、これまたビールがうまい。翌日バルセロナに向けて出発、習慣の違いで昼食は二時過ぎ、夕食は八時過ぎでないとレストランなど、店が開いてないというのが少しつらく、あめ玉で飢をしのぐ有様でした。翌二十九日はバルセロナ郊外の畑作農家視察の予定が、なぜかまた、畜産農家。八十五頭の食用牛、平均九十頭の育成牛、千八百頭の豚、六百羽の鶏、民宿を三軒経営という農家でした。

次の日マドリッドへ移動、プラド美術館など見学。十二月一日は高齢者福祉施設を見学。午後はフラメンコダンスの体験、マドリッド一番の大きなダンス学校へ行き二時間基礎を習い、足（ステップ）、指の動かし方、カスターネット、手の打ち方など、一曲マスターするまでに全身汗びっしょりで、更衣室はあけてびっしょり、無防備な若い娘達でむんむん。日本のおばさん達は目のやり場に困りました。翌日はパリに移動、美術館な

ど見学。今回の旅でオランダ、スペイン、フランスにある世界の三大名画をすべて観られて、し・あ・わ・せ。十二月三日はパリ市内マルシェ市場見学、夜はクリスマスイルミネーションも素敵なシャンゼリゼを通り、リドのショーを見学。次の日オランダに移動してから九時間半のフライトで札幌に向かいました。最後にこの旅を与えてくれたすべての人に感謝申し上げ、視察研修報告と致します。



フラメンコダンスを体験しました



愛情こめてつくるのも女神の技

乳製品を使った料理をもう一品くわえましょう

北根室地区農村女性講座



アップルケーキは絶品ですね

十二月九日、雪印乳業中標津工場研修室にて、北根室三丁Aの農村女性講座が開催されました。

今回のテーマは、「すばらしい女神たち」と題して、北の大地で輝く農村女性について、料理講習会と講演会の形で行なわれました。

料理講習会では、「ハーブ親子丼」などに挑戦しました。牛乳でご飯を炊くなんて、考えもしない方も多いはず。お味のほうは、コクと甘味が増してカルシウムもアップ。とってもおいしいんです。参加者は、「こんな、おいしい料理を簡単に作れたら、子供達やお父さんを『おっつ女神さま』と言わせる事ができるかもね。」

華のある生活で心にゆとりを

女性部華道教室



「おもしろ」
「万年青」は花もちがよく、3月末頃まで楽しめます

十二月二十、二十七日の二回にわたり、女性部華道教室を行ないました。

クリスマスや年の瀬など、忙しい時間を過ごす時期に、日本の伝統文化、華道でちょっと雰囲気落ちつかせて見てみては？と東池坊・大河内より子先生に優しく、丁寧^{おもしろ}に教えて頂きました。

一回目の教室は「万年青」の生け方を教わりました。参加者は、「一年に一回のこの行事が楽しみ」との声もありますが、基本を忘れてしまうとの声もチラホラ。

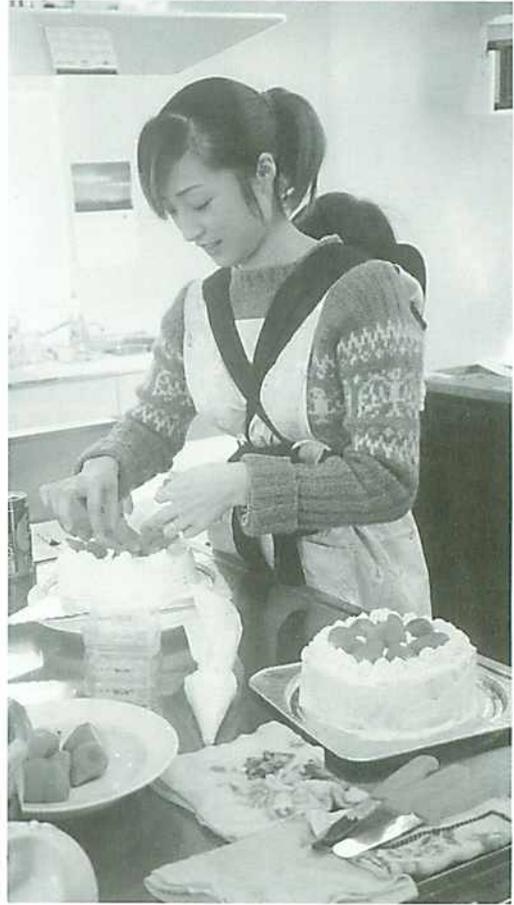
二〇〇〇年はぜひ、ワンランク上を目指して、定期的にお華を習ってみてはいかがでしょうか。



大河内先生のわかりやすいご指導

手作りケーキでハッピークリスマス！

フレッシユミズクリスマスケーキ教室



デコレーションもGoodです

十二月二十二日、しるべつと実習室でフレッシユミズを対象に、クリスマスケーキ教室が行なわれました。今回は、高橋百合さん（西武佐地区）を講師に「切り株ケーキ」に挑戦しました。参加者七人とちよっぴり少なめでしたが、それぞれが愛情を込めたケーキを焼き上げました。デコレーションも、個性的に仕上がり各自で家に持ち帰りました。



生クリームたっぷりおいしそう

参加者は「久しぶりにケーキ作りをするので、手順をまちがえちゃった」などとハプニングもありましたが、楽しくおしゃべりをしながら、親睦を深めていました。

牛の赤ちゃんは何をたべるの？

丸山小学校三年生牧場見学

丸山小学校三年生、五十四人（二クラス・男子三十人・女子二十三人）が十二月十日、校外学習の一環として、武佐地区の高橋牧場を見学に訪れました。

この学習は社会科における地域学習の一環として、基幹産業である酪農について牧場見学を通して農業の大切さを学んでもらうことを目的に毎年行なわれています。

施設を見学しながら生徒達は、高橋さんに「牛は何頭いますか」「乳搾りは何時間かかりますか」「牛は一日どの位、えさを食べますか」「一頭の牛から牛乳はどの位出ますか」「牛に名前がありますか」「一日何時間働いていますか」など、多くの質問が出されました。



第48回
全道JA青年部大会

問題解決はできる ことから一つずつ

農協青年部 西垣 努

第四十八回全道JA青年部大会が、十二月二日、三日札幌で今年も行なわれました。岡部部長、佐々木副部長と大会に参加してきました。

今年の大会は、開会の後「フリースピーチ」JA青年の主張大会、続いて活動実績発表と、みんないろいろな問題を抱えながらも、何をしたらいいのか、何ができるのかと議論しながらできることから一つずつ、みんながんばっていることが伺えました。

それら終了後は、パネルディスカッション、「農業は、みんなの元気産業」と言うテーマで、環境ホル



アニマル浜口氏の熱のこもった講演

モンや遺伝子組み替え作物など、消費者の食の安全性に対する関心が高まっていく中で「あなたとともに考えたい北の農業」を合い言葉に、二十一世紀の農業をクリーン農業、食の安全性などについてディスカッションが行なわれました。

二日目は記念講演、「求めて息まない心」と題して、元プロレスラー・アニマル浜口氏の講演があり、幼い時の自分の苦労話やプロレスラーとして、父親として、また、世界女子レスリング特別コーチとして愛娘である浜口京子さんとともに世界にいくどむ話、涙あり笑いありの中、一時間三十分では、とても語れるものではなかったようですが、最後は青年部員みんなが浜口氏に気合いを入れてもらい、講演が終わっても拍手がやまないほどでした。

あいにくの悪天候の中行なわれた大会ではありましたが、参加された皆様、本当にご苦労様でした。

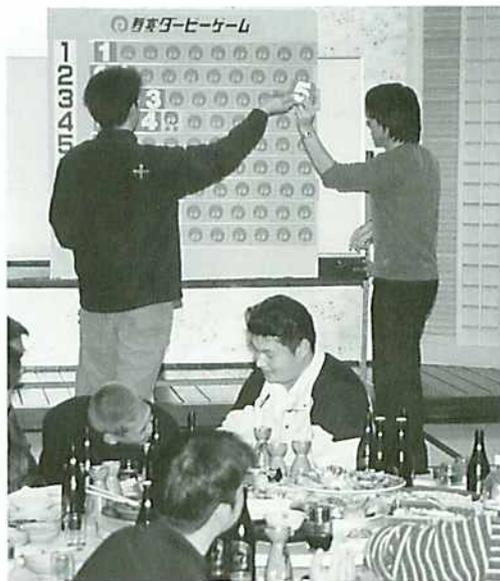


二〇〇〇年に向けて部員一丸の協力を求める

農協青年部反省会

平成十一年の事業の反省と新年に向けての抱負を語る、農協青年部反省会が十二月十四日、寿宴を会場に開催されました。

当日は、三十六人が参加し岡部達也部長が「当初計画された環境整備事業は、アクシデントがあり二支部ができていませんが、三支部は無事終了する事ができました。新しい年二〇〇〇年に向けて、部員一丸となって協力をお願いします」と挨拶。続いて、上ヶ島利春副部長の乾杯



今年も盛り上がったダービーゲーム



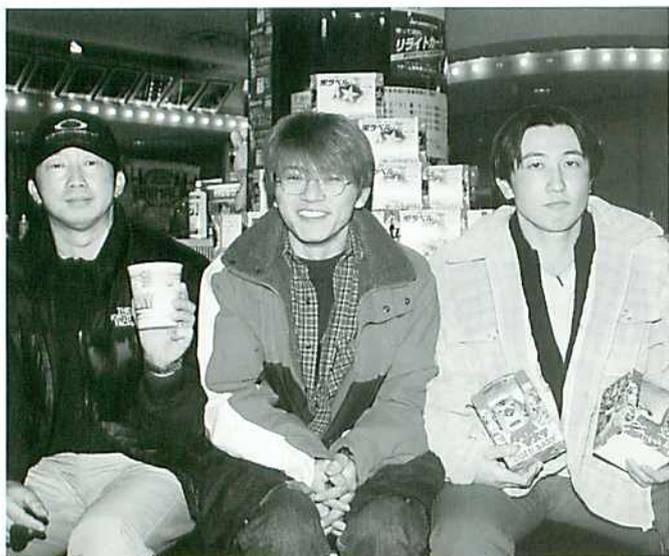
恒例のビールの早飲み

で、各テーブルごと次年度に向けての抱負が話し合われました。その後、レクリエーション委員会による「ジ



女子職員も交えてのジャンケンゲーム

ヤンケンゲーム」「ダービーゲーム」など楽しいひとときを過ごし、部員間の交流を深めました。



三位に輝いたBチーム

J A 中標津青年部 B チームが三位に輝きました

根室地区 J A 青年部 スポーツ交流会

平成十一年度、根室地区 J A 青年部 スポーツ交流会が十二月十五日、ウコウボウルで開催されました。

この交流会は、管内の青年部員を一堂に会し各単組間の盟友間の親睦をはかり、今後の J A 青年部事業の活性化をはかる目的で開催されています。

当日は、管内から六単組・十三チーム・三十九人が参加し、一ゲーム三人の団体戦が行なわれ、当青年部から A・B 二チームが参加し、B チームが三位に輝き、A チームも四位と好成績を納め、各単組間の交流を深めました。



優勝めざしてゲームのスタートです

12月の組合日誌

- 1日 地区別懇談会（第二俣落、西竹、俵橋）
営農計画書作成～20日
- 2日 地区別懇談会（中標津、開陽）
- 10日 第7回生産委員会
- 11日 馬鈴しょ耕作者全体会議
- 12日 J A 中標津杯ソフトバレーボール大会
- 13日 平成12年度新採用准職員筆記試験
- 14日 第4回管理購買委員会
てん菜振興会役員会
- 17日 第3回役員協議会
- 20日 女性部華道教室
- 24日 平成12年度新採用准職員面接試験
- 27日 第10回理事会
- 30日 業務納め



おおきなフルーツ皿ができてさう

個性がひかる！力作揃い

中標津JHCウィンタースクール

十二月十一日、中標津ジュニアホルスタインクラブのウィンタースクールが、しるべつとで開催されました。
今回も親子で楽しみながら参加できる陶芸教室が行なわれ、参加者は動物の置き物や食器を作りました。参加した子供達は、粘土を力強くこねて、個性的な作品づくりをしていました。父母の皆さんも、思いおもいの作品を作り、子供と一緒に楽しく作りました。
作品は十二月末に素焼きを終え、一月中旬には色付け、本焼きされ完成します。できあがりがいまから楽しみだね。



みんな真剣ですね

編集後記

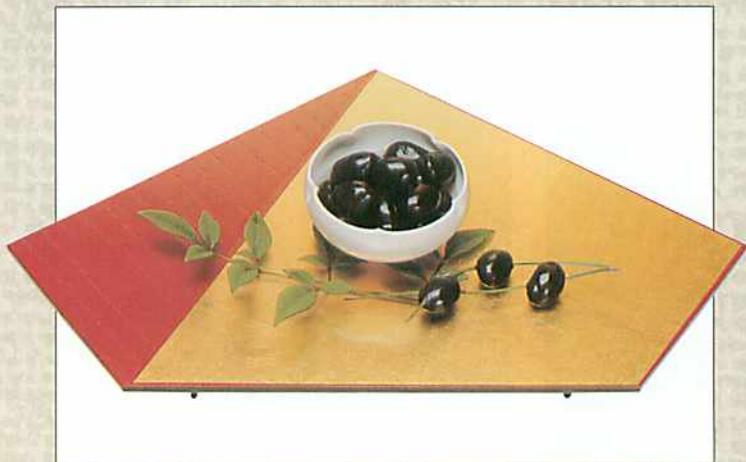
新年あけましておめでとうござ
います。

組合員皆様におかれましては、
二〇〇〇年のお正月をご家族お揃
いでお過ごしのことと思います。

皆さん「若水迎え」という言葉
をご存知ですか。若水とは、元日
の朝、最初に井戸から汲んだ水の
ことをいいます。「若水迎え」と
いうのは、身を清めて井戸に若水
を汲みにいくことで、一家の家長
が汲むというしきたりがあります。
若水を飲むと若返るとか、病気に
ならないといわれ、大福茶をたて
たり、雑煮を煮たりします。水道
が普及してからこの風習もうすれ
ましたが、水道の蛇口に輪飾りを
かけて清め、蛇口をひねって最初
に出す水を若水とする考え方もあ
るそうで、「若水」を飲んで病気
にならないよう健康管理に努めて
下さい。

本年は皆様にとって良い年であ
りますようお願い申し上げます。





黒豆 健康と長寿を祈念して

祝いの筆頭である黒豆には、一年中
まめに働いてまめに生きるという意味あ
いがあります。

関西風は甘くふっくら煮、関東風は、
「しわの寄るまで長生きできるように」
と、無病息災をと、表面にしわを寄せて
上げます。